

令和元年度北杜市郷土資料館運営協議会委員委嘱式

日 時 令和元年 12 月 23 日（月）午後 1 時 30 分～

場 所 北杜市郷土資料館情報室

出席委員 高橋達郎・板山國夫・篠原旭・大柴久・麻川陽三・浅川孝夫
跡部元・水原康道・八巻與志夫（9 名）

欠席委員 鈴木今朝和・氏原宏幸（2 名）

事 務 局 堀内教育長・佐野課長・長谷川・中込

1. 委嘱状交付（堀内教育長）
2. 教育長あいさつ

令和元年度 第 1 回北杜市郷土資料館運営協議会会議録

日 時 令和元年 12 月 23 日（月）午後 1 時 40 分～

場 所 北杜市郷土資料館情報室

出席委員 高橋達郎・板山國夫・篠原旭・大柴久・麻川陽三・浅川孝夫
跡部元・水原康道・八巻與志夫（9 名）

欠席委員 鈴木今朝和・氏原宏幸（2 名）

事 務 局 佐野課長・長谷川・中込

1. 開会
佐野課長から開会を宣す。
2. 会長並びに副会長の選出
会長に水原康道委員、副会長に八巻與志夫委員が選出され、承認を得る。
3. 会長及び副会長挨拶
水原康道会長から、あいさつを述べる。
4. 会議録署名委員指名

水原康道会長が議長となり、高橋委員並びに板山委員の2名の指名を行う。

5. 審議会の公開について

傍聴人がいないことを確認。以下議事に入る。

6. 議事

(1) 令和元年度郷土資料館事業について

事務局：「令和元年度郷土資料館事業」について資料により報告を行う。

議長：質疑または意見を求める。

委員：北杜市考古資料館から貸し出した資料も展示されている九州国立博物館での展示「縄文王国やまなし」は約50日間で7万人の方が来場されたという報告があった。山梨の縄文が非常に注目をされていると感じる。

委員：津金学校の入館者が他の館と比べると多いようだが、どのような取り組みをしているのか。

事務局：津金学校の入館者数はカフェの利用者も含めた数なので、実際の施設の見学者は報告した数の8割程度になるが、それでも入館者数は他の4館と比べると多い。おいしい学校と協力しながら、おいしい学校に来た人が入館してもらえるように誘導していたり、桜やリンゴの時期には地元の方々とともにイベント行うなどして地域とつながって、盛り上げていこうとしていることが入館者増につながっている。

議長：他に質疑または意見はないか。なければ次の議題へ。

(2) 資料館の運営方針の刷新について

事務局：来年度の資料館の運営方針について、これまでの企画展の中心の資料館運営から、地区公民館活動、学校教育と連携し、資料館学芸員が出前講座、出張授業を行なう「飛び出せ！資料館事業」に重点を移していくことを説明。

また、これまで非常勤嘱託職員2名+αで運営してきた各資料館について、「飛び出せ！資料館事業」により+αを担ってきた正職員が外に出て行くことが多くなりこれまで同様の運営ができなくなることから、火・水の週休2日制を導入し、非常勤嘱託職員（来年度からは会計年度任用職員）2名で各館が運営できるようにしていくことを説明。

事務局：市の総合戦略策定のために行った市民アンケートの結果では、資料館事業について、よく分からないという人が6割に及んだ。配布資料を見ていただくと平成24年頃から資料館の入館者が増えているが、これは近隣の市町村の博物館や美術館でも同じ傾向が出ており、この入館者増はこの地域に観光客が増えたことによる増加と考えられる。これらのことから考えると、これまで企画展を中心に学芸活

動を行なってきたが、市民には届いていないといえる。一方で、市民が地域の歴史に関心がないわけではなく、より身近な地域の歴史に対する関心は高いことがうかがえることから、学芸員が公民館や学校に積極的に飛び出して、講座等を行なうことに重点を移していきたいと考えている。

また、これまで自治体における臨時職員については、本来は臨時的に配置される職員という立場であるにも関わらず常態化しており、一方で昇給がない、手当が少ないなどの問題を抱えていた。同一労働同一賃金の原則から、国として会計年度任用職員という制度を設け、昇給や期末手当の支給が定めるなど、雇用条件の改善が図られる一方、人件費の増加が見込まれ、効率的な人員配置を工夫する必要がある。

議長：質疑または意見を求める。

委員：市民の来館者があまり増えていない、資料館での学芸活動が市民に届いていないということが問題なのであれば、他の施設や分野の人たちとコラボするとか、カフェを併設するとか、何か話題になることをやったほうがいいのではないか。企画展を減らして、飛び出せ学芸員事業をやっていくと、公民館等で話を聞いた人はそれで満足してしまい、来館者数はさらに減ってしまうような気がする。

事務局：市民アンケートによれば 6 割の人が資料館で何をやっているのか知らないという状況であり、地域に飛び出して行って、身近な歴史について互いに学んでいくことで、地域の歴史への関心が高まり、いずれは資料館の来館者増にもつながると考えている。

事務局：入館者数を増やすだけなら、委員がご指摘のように、さまざまな分野とのコラボや目立つ企画、飲食ブースなどを作ればいいと思う。飛び出せ学芸員事業を行なうことで、短期的には来館者が減ることがあってもいいと考えている。資料館としては、入館者を増やすことよりも、地域の人々が歴史を知ることによって自分の住んでいる地域に誇りを持つことや、若い人が地域に愛着をもち、北杜市に住み続けようという人が一人でも増えることのほうが大事だと考えている。

委員：この地域に誇りを持つことが資料館事業の目的であることには納得した。そのうえで市としても移住・定住の促進を図っており、この地域の魅力を市外・県外に住む人々に大きく発信し、移住・定住者を増やしていくことも資料館の役割の一つではないか。

委員：飛び出せ、学芸員事業を行なうにあたって、地域のことを深く知る人間が数多く必要だと思うが、そうした人材はいるのか。人数は足りているのか。

事務局：資料館担当には 2 人の学芸員がいる。当然、市内の地域や歴史のことについて全て分かっているわけではないので、さまざまな地域に呼んでいただくことでその地域のことをさらに学んでいく機会としていきたい。また学芸員が一方的に地域の歴史を伝えるというスタンスではなく、地域の方からも地域に残る言い伝えや

文化などを教えていただきながら、ともに学んでいくということを大事にしていきたい。

事務局：資料館担当には2人の学芸員がいるが、学術課の文化財担当には他に専門職員が4人いる。資料館担当だけでは、とても事業がまわらないほど地域からの要請があれば、文化財担当の専門職員にも分担してもらいながら事業を進めていきたい。

委員：地域の人や地域の学校の人たちに資料館での活動を届けたいという趣旨にも関わらず、週休2日制を導入することで学校が利用しにくくなってしまっているのではないかと。

事務局：生涯学習団体、学校の利用など事前に予約がある団体の利用については、休館日においても利用できるようにしていく予定である。

委員：学芸員の出張事業というのはこれまでもやってきているのか。やっているとするところのように周知してきたのか。

事務局：今年度から試行的に事業をスタートしている。今年度当初に、区長会でチラシを配布し、学芸員が出前講座を行なうことについて周知している。

委員：各公民館では公民館主事がいろいろと苦労しながら事業を行なっている。飛び出せ！学芸員事業は公民館との連携がうまくいくかどうかが大変だと思う。公民館主事の集まりがあるので、そうした場でしっかりとこの事業をPRして公民館との連携を強くしていただきたいと思います。

事務局：区長会だけでなく公民館主事の皆さんにもしっかりと周知に努めていく。

委員：学校現場で地域学習というと、北杜市全体というのは対象として広すぎるので、学区内、旧町村単位ぐらいの地域が想定される。今年も武川小学校では34年災害について、白州小学校では古屋五郎についての学習を進めている。飛び出せ学芸員事業についても、北杜市の歴史ということではなく、各学校の学区内の地域学習について、協力してあげられると学校現場のニーズと合うのではないかと。

事務局：南アルプス市では、担当者が学校の先生方の研究会に入り、一緒に地域学習の教材研究を行なっている。北杜市においても、是非担当者が先生方の研究会などにも参加させていただきながら学校との連携を深めていきたい。

事務局：先日、北巨摩の先生方で作る地域部会に参加し、学校現場において資料館を活用していただくために意見交換をさせていただいた。学校現場では、行事も多く、授業数も増えているなかで、なかなか資料館に訪れる時間をとることが難しい。また限られた予算の中でバスを借りることが難しいという意見があった。学芸員が資料を持って学校に出向いてくれるのであればありがたい、活用していきたいという声もいただいている。

委員：資料館事業の新たなあり方を検討することも大事だが、今の資料館事業のなかでももっとできること、また改めていく部分があるのではないかと。あるとき資料館に訪れ見学しようと思っただけで展示室に入っても電気がついていないことがあった。

つけ忘れであったが、そもそも来館者を受け入れる心構えが足りていないのはいか。市内の資料館以外のほかの場所で展示させてもらうとか、他の団体などと連携してイベントを行うことも必要だと思う。また市内にはいくつか郷土研究会があり、盛んに活動している団体もある。こうした団体や郷土史に詳しい人たちとも連携をする必要があるのでは。

事務局：来館時に不快な思いを与えてしまったことについてお詫び申しあげる。職員一同気を引き締めて来館者への対応を行なっていきたい。

資料館事業については、企画展を行なわないということではなく、これまで企画展に重点が偏っていたものを、飛び出せ学芸員事業に移していくということである。学芸員が地域に飛び込むなかで、地域の方々と地域の歴史を掘り起こしていき、そうした成果を展示にも活かしていきたい。郷土研究会とも今後も連携しながら、資料館活動を行なっていきたい。

委員：誰のための資料館活動という視点が大事であり、今回の資料館運営刷新の方向は「地域住民のため」という視点であることに納得をした。

委員：これまでも出前講座や出張授業というのは、各地でも行われているし、市内でも生涯学習事業として行なわれてきている。多くの場合、その場で話を聞いて終わり、周りの人へ広がっていかないことが課題である。学芸員が講師としていくことも大事だが、地域の人間が地域の人に地域のことを語ることが大事で、地域のことを語っていってくれる人を育てるような事業、視点も必要ではないか。古老など地域の人のお話しには、思い込みや間違いが多い。そうした思い込みなどについては訂正しながら、確かな歴史を残していくことが資料館の役割の一つではないか

委員：資料館で週休2日制を導入しているのは全国的にも非常に珍しい。北杜市として、かなり勇気ある舵の取り方、チャレンジをしようとしていると感じる。課題もあるかと思うが、それでも市民に学芸活動を提供していきたいという思いということなので応援していきたい。

事務局：さまざま貴重なご意見をいただき感謝申しあげる。いくつかの懸念事項はありながらも、運営方針の変更については基本的には賛同いただいたと理解している。皆様からの意見を踏まえながら、よりよい事業を展開していきたい。

議長：他に質疑または意見はないか。なければ次の議題へ。

(3) 令和2年度郷土資料館事業及び予算について

事務局：「令和2年度郷土資料館事業及び予算」について資料により説明を行う。

議長：質疑または意見を求める。

委員：予算の内訳を見れば、ほとんどが人件費や施設維持管理にかかるものであって、学芸活動に関わる予算が非常に少ないということが分かる。

先ほども入館者数の話しがでたが、「飛び出せ！学芸員」事業で公民館や学校での出張講座、出前授業で学芸員が相手した人数については、施設利用者数などとしてしっかりカウントして、成果としていく必要があるのではないか

委員：市外県外から北杜市への定住を促進するための魅力を発信していくということも資料館の大きな役割であり、そのような視点で市外へも PR して行って欲しい。

委員：資料館への道すがら、看板がほとんど見あたらなかった。看板を立てて資料館への行き方を分かりやすくしたほうがよいのではないかと。

事務局：実は資料館の看板については、市内のあちこちに建ててある。看板やサインについては、市の景観条例によって景観を壊さないような色を使うことになっているため目立ちにくくなっている。

議長：他に質疑または意見はないか。なければ次の議題へ。

(4) その他

事務局：今年度の事業として予算化している浅川兄弟の生涯を描いた漫画の製作については、昨今の日韓関係の悪化により慎重に事業を進めていく必要があり、製作方法、発行の時期等について、現在検討中である。

議長：他に質疑または意見はないか。なければ閉会とする。

7. 閉会

八巻副会長から閉会を告げる

(午後 4 時 00 分終了)